

審査員

色々美術研究所 代表 池田聖子

審査にあたり、評価の基準にしたことは、自分が見て魅力的だな、欲しいなと思う作品かどうかということです。生徒さんは、身体的な個性があり、いろいろなことに興味関心を持ち、創作活動していることでしょう。しかし、その様子は分かりません。ですので、全て、一つの作品として魅力的かどうかで作品を選びました。

<絵画コンクール部門>

全体的に見て、昨年と雰囲気が変わった感じがしました。

同じ学校の作品かなと思うものもありますが、技法や素材、題材が一緒でも、一枚一枚の作品は異なります。作品をよく見ると、鉛筆を消した跡や人物の表情など一人一人の活動や個性が感じ取れます。同じ色を使っているけど、表れてくるものが違ってきます。いい作品を分けるのは難しいですが、自分の色、形、時間、思い、道具や素材へのこだわりが見えてくる作品を評価しました。

最優秀賞 「とけいロケット出発 宇宙へ」 秋田きらり支援学校 小学部3年 福原 毅士

手数が多くない。絵を描くというよりも、彼の頭の中の世界を表現している。全く余白がなく、そのエネルギーがすごい。圧倒的な力強さを感じる。絵の具、ペンなどを使い、画材に引っ張られることなく、彼自身の世界観が現れている。

最優秀賞 「友達」 秋田きらり支援学校 高等部3年 星川 聖龍

線がとても美しい。線ひとつとっても、かすむような、撫でるような細い線もあれば、筆圧がぐっとかかった太い線もある。その抑揚が心地よい。同じ“黒”だけど、画材の違いで見え方がいろいろ。タイトルと照らし合わせても魅力的な作品。

特文連会長賞 「割とどこにでもいる武器屋さん」 栗田支援学校 高等部3年 熊谷 和

定規で筆圧を込めて描いている。何度も描き直したのか、紙がへこんでいる所がある。近寄って見たときに、時間の集積や魅力的な表現が感じ取れる。“武器”と聞くと物騒だが、愉快に見えてくるような色づかいも良い。

美術部会長賞 「およぐ魚」 天王みどり学園 中学部3年 佐藤 莉菜

水彩絵の具は乾く前に塗り重ねると濁るが、この絵は濁りがほとんどない。ふわっとした発色のよさが白い紙に映えている。配色や心地いいリズム感にそそられた作品。筆のスピードを感じたり、ゆっくり描くようなところもあって、そこもいい。

<自由作品部門>

ものを表現する、手を動かして創るということは、人間の根源的な喜びだと思う。それを表現に結び付けるために、先生方が生徒の思いを引き出しながら、色や素材を工夫している。生徒たちの喜びが感じられる作品が多かった。

最優秀賞 「中2 ねがいの「こまち」 稲川支援学校 中学部2年合同

縦に重なる新幹線を初めて見ました。色もシンプルで情報量がすっきりしていると、見せたいところに視点がいく。これは誰、あれは誰と思いつつながら人物を貼っていったのかと思う。先頭を引っ張っている人が笑っていることは良いことですね。

最優秀賞 「絵を描く私」 湯沢南中学校3年 T・S

椅子が真ん中じゃない。本を読んでいるのかな？絵を描いているのかな？人物の視線の先に空間があることで、時間の流れを感じる。どこに配置するかによって、そこに表される物語が変わってくる。ゆとりと空間のある静かな世界が漂っている。

特文連会長賞 「カラフル無敵鳥」 ゆり支援学校 高等部1年 佐々木 李咲

絵画として完成度が高い。表面が砂で紙やすりのような質感なので、絵の具が沈み込み、筆が滑らない。描きにくい中で、素材に合った描き方で根気よく描いている。鮮やかに見える黄色、マットに見える濁った色、そのリズムがすごく美しい。

美術部会長賞 「中2 サプライズ 世界に二つだけのカレー」 栗田支援学校 中学部2年 合同

米の一粒一粒を丁寧に、愛おしくように照りを出して塗っている。具材も切り方をちゃんと変えている。自分が食べたときにおいしく感じる具材の切り方を知っているのだと思う。特別な素材でない紙粘土でいろいろな質感を生み出し、可能性を引き出している。